

第2回アート&アクセスシンポジウム「釜ヶ崎のアートへ」

the Second Art and Access Symposium, "Exploring Kamagasaki" through the Arts

2009年9月12日(土)、アート&アクセス第2回シンポジウム「釜ヶ崎のアートへ」が、都市研究プラザ所長の佐々木雅幸が委員長を務める地域アートマネージャー育成事業実行委員会の主催により西成プラザにて開催された。本シンポジウムは今年5月から同委員会で行っている「地域のためのアートマネジメント講座」の一環であり、2008年3月の第1回に続いてアートとコミュニティ/アートのアクセシビリティに注目し、今年は釜ヶ崎を舞台とした。

午前の「釜トーク」では、若松司(G-COE特別研究員)と山田英範氏(ビジネスホテル中央グループ専務取締役)によるレクチャーが行われ、釜ヶ崎とそのイメージが形成された経緯および現状が概括され、釜ヶ崎のアクセシビリティを高めるために行われている最近の活動も紹介された。

午後の部は栗原彬氏(立教大学名誉教授、立命館大学特別招聘教授)の基調講演からはじまり、負の記憶の表現とつながり・コミュニケーションの窓口としてのアートのあり方について語られた。その後、釜ヶ崎で実際に活動している12団体が各々10分間のプレゼンテーションを行い、現場の生き生きした声が焼く30名の参加者に届けら

れた。

そしてフリーディスカッションでは、全ての関係者—研究者、住民、支援者、学生など—と一緒に話し合い語り場を作る文化と、そのつながりから生じる公共性の価値を、心理的に遠い存在だった釜ヶ崎に接してより実感できた、といえよう。 ■全ウンフィ(第2ユニットRA)



シンポジウムの広報チラシ



団体プレゼンテーションの様子

On September 12 (Sat.) 2009, the Second Art and Access Symposium, "Kamagasaki and the Arts", was held. This symposium focuses on the arts and community and the arts and accessibility, and this year it spotlighted Kamagasaki and its artistic activities. Proceeding through lectures and free discussion, concerned individuals and participants talked about how to make Kamagasaki more accessible through arts-related activities and what kinds of art could help share memories of Kamagasaki that transcend its existing image.